

祝

受賞された皆さん おめでとうございます



### 第58回中学生「税についての作文」 全国納税貯蓄組合連合会長賞

吉里吉里学園7年生 田中天さん

11月25日(月)、税への学びを深めることを目的とした「税についての作文」で全国納税貯蓄組合連合会長賞を受賞し、校長室で表彰状が授与されました。この取り組みは、国税庁と全国納税貯蓄組合連合会が、全国の中学生から作文を募っているもので、今年で58回目となります。田中さんは「自分が賞を取れるとは思っていなかった。税に対してマイナスのイメージを持つ人が多いことに疑問を感じ、諸外国と日本を比較してみた」と話しました。

### 第74回社会を明るくする運動「作文コンテスト」表彰

吉里吉里学園4年生 平野詩織さん  
吉里吉里学園9年生 岩城結音さん  
大槌学園9年生 川端萌心さん



11月30日(土)、第74回社会を明るくする運動「作文コンテスト」釜石地区表彰式が釜石情報交流センター釜石PITで行われ、町内の児童生徒3人が表彰を受けました。社会を明るくする運動に合わせた、この作文コンテストは、犯罪や非行のない地域社会を作るため、釜石・大槌地区の小中学生たちが日ごろの生活で体験したことや、自分自身が考えたことや感じたことを作文にするものです。今回受賞した3人は、表彰後に関係者らの前で作品発表を行いました。

### 令和6年 瑞宝双光章

元消防団長 越田政美さん



12月13日(金)、越田政美さんが受章した瑞宝双光章の伝達式が行われました。越田さんは、昭和46年に団員になり、分団長、本部長、副団長を経て平成26年に消防団長に就任。10年間にわたり消防団長を務め、令和6年3月で退任するまで53年の間、消防団として町の防災に貢献しました。

平成13年飛内山林野火災、平成23年東日本大震災津波、平成28年台風10号豪雨災害など幾多の現場の最前線において尽力された越田さん。伝達式では「団員の皆さまの協力があり、ここまで長い間、消防団の一員として活動できました。大槌町消防団には、今後も町民一人一人のために防災に尽力していただくようお願いします」とあいさつしました。

### 消防協力者に感謝状を贈呈しました

11月29日(金)、金沢地域で発生した交通事故での人命救助において、消防協力者として功績が顕著であると認められ、伊山慎一さんと伊山ヨシミさんの2人に感謝状が贈られました。

10月中旬、ムシナイ橋たもつから落差約2メートルの沢に、軽トラックが転落した車両事故が発生。自宅に帰る途中で、たまたま通りかかった伊山さん親子が転落した軽トラックを見つけ、運転手の70代男性を車内から救出しました。事故に遭った人の家族が駆け付けるまでの間、声を掛け続けたり、水を飲ませたりなど介抱をした伊山さん親子の行動が、迅速な救助と通報につながりました。伊山さん親子は「この前、助けてくれたお礼にと自宅に来ていただいた。元気な姿を見てホッとした」と、ほほ笑みながら話しました。

### 消防協力者表彰式



伊山慎一さん  
ヨシミさん

## 大槌の歴史「大槌氏をめぐるナゾ」

### 30年を経て たどり着く新たな町史

平成5年の広報おつちに掲載した「大槌氏をめぐるナゾ」。明瞭に論及できなかった最大のナゾを、当時の執筆者である花石公夫さんが、その後30年の歳月をかけてまとめた「新編大槌孫八郎の系譜」を自費出版しました。



として解明を試みたものの、明瞭に論及できず、ナゾを含んだまま全12回の幕が閉じました。

### 町の新たな歴史を発見

花石公夫さんは、広報おつちの掲載をきっかけとして以後も、このナゾの大きな鍵となる「夏本屋里館氏略系図」の信憑性を調べ続けました。系図に書かれた名前を一人ずつ、信頼できる史料に記述がないかを調べ上げ、実在性を追い求めていきました。

### 広報おつち 歴史の窓コーナー 「大槌の歴史～大槌氏をめぐるナゾ～」とは



QRコードから、全12回の「大槌の歴史～大槌氏をめぐるナゾ～」を読むことができます。

広報おつち平成5年4月号(No.304)～平成6年3月号(No.315)で、町の歴史をたどる「歴史の窓コーナー」に掲載しました。大槌氏の歴史を、現代に残された史料を挙げながら解説した内容となります。

### 大槌氏をめぐるナゾ

戦国の世で、大槌城の城主として数代にわたり孫八郎を名乗り、名声を上げた大槌孫八郎は、町民なら一度は耳にしたことがあるでしょう。

最後の城主であった孫八郎政貞は、武勇の誉れが高く、一説では稀代の荒馬を乗りこなしたなどの逸話が残されています。「大槌町史」をはじめ史書の中では、大槌氏は遠野阿曾沼氏の支族だったと記述されています。しかし、安渡地区で見つかった系図(夏本屋里館氏略系図)には、大槌氏は安部氏の出であるとの記述があったのです。この最大のナゾを掲げ、平成5年当時、大槌町文化財保護審議会委員だった花石公夫さんが、広報おつちの歴史の窓コーナーで「大槌氏をめぐるナゾ」

た文章表現にしました」と、優しい表情で話しました。

歴史を調べるのが趣味の一つと話す花石さんが、歴史に興味を持ったのは昭和30年半ば。大槌町史の編集・執筆の中心的な役割を担った一人で、大槌町史編纂委員長も務めた故 沢館栄吉さんと共に、委員として町の歴史を調べ始めたのがきっかけと話した花石さん。「東日本大震災津波で自宅が浸水した。町全体を見ても、多くの歴史ある史料や石碑などが失われてしまった」「大槌町史にも記されていない町の歴史を執筆できて安心した。続けられる限り町の記録を残し続けていきたい」と、町の歴史への熱い思いを語りました。



花石公夫さんと妻・國子さん

「新編 大槌孫八郎の系譜 増補版」  
令和6年12月下旬に販売開始。書店でも販売予定。  
【問い合わせ先】花石公夫 TEL 0193-42-2867

TOPIC